

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生医療福祉専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生医療福祉専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	井上 将彦	(医) 聖峰会 マリン病院 (事務次長)
業界関係者	大庭 欣二	(同) 福岡福祉向上委員会 (代表)
業界関係者	玉ノ井 敏子	(福) まごころ会 あゆみらい保育園 (園長)
業界関係者	副島 和代	そえじま内科クリニック (事務長)
業界関係者	矢島 博仁	公立学校共済組合 九州中央病院 (事務部長)
業界関係者	占部 尊士	西九州大学短期大学部 (准教授)
業界関係者	大澤 利通	(公社) 福岡県介護福祉士会 (理事)
業界関係者	大山 和宏	(一社) 福岡県精神保健福祉士協会 (会長)
業界関係者	西山 謙	(公社) 福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会 (委員長)
卒業生	大本 栞	医療秘書・事務科 (医療秘書科) 卒業生
卒業生	田中 隼平	福祉心理学科 (心理カウンセラー科) 卒業生
卒業生	中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生
卒業生	宮井 浩志	社会福祉科 卒業生
保護者	中村 良美	診療情報管理士科 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2020年 9月 26日（土）13:00 ～ 14:10

場 所：麻生塾福岡キャンパス 4号館 5階 453教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2019年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2019年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【評価結果・取組み状況】

- ・例年取り組んでいる夏季のカリキュラム研修において、外部からの講師を招いての「教学マネジメント研修」を常勤教員全体で受けることができ、その後の法人全体での同研修において学びを深めることができたうえで、各学科の教育課程の体系化に取り組むことができた。
- ・法人内の教育推進グループが主体となって、前期には外部評価者による常勤教員の評価とフィードバック、後期には校責任者による常勤教員の評価とフィードバックを行った。
- ・業務の可視化と負担の軽減については、例年業務分掌を作成している学科・系を参考に、他学科・系についても取り組む予定であったが、すべて完了するには至らなかった。

【委員からの意見】

- ・常勤教員に対する研修や外部評価者による評価・フィードバックの対象となっているか。必要である。

【改善の方策】

- ・非常勤講師を対象とした研修や評価・フィードバックについても、方法を考えて取り組んでいく。
- ・業務の可視化と負担の軽減については、具体的な方法と進め方について、法人全体でプロジェクトチームを組み改善に取り組む。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・建学精神に基づき、教育理念、教育の目的及び人材育成像を定め、学校構成員に周知を図っている。また、ホームページに掲載することにより、社会への公表も行っている。
- ・学科ごとに、目的、育成人材像、目標を定め、学生便覧に掲載し、学生・保護者、今年度からは非常勤講師に配付、説明している。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては、学科ごとに見直し、体系的に周知できるよう整備を行い、学生・保護者に対しては、オープンキャンパスをはじめ、入学後の新入生オリエンテーションなどで周知し浸透を図っている。

【委員からの意見】

- ・情報発信の ICT 活用に関しては、ハード・ソフトの面から、法人全体での取り組みが必要である。中長期計画での位置づけを図り、業界をリードして欲しい。
- ・教育理念・教育目標の周知については、しっかり取り組んでいると思われる。今後は、時代の流れ、環境の変化に応じた理念・目標の確認、見直しも必要になってくると思われる。

【改善の方策】

- ・情報発信の ICT 活用については、関係部署との連携・協働により進めていく。
- ・社会環境に合わせて、教育目標を適時的に見直し更新していく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・本校の運営方針は年度毎に策定し、運営会議、経営会議の承認を得たのち、年度開始時に、教職員対象のキックオフミーティングにおいて周知している。
- ・運営方針に沿った事業計画を策定しているか否かについては、関連部署との連携を図り、定期的な責任者会議を経て検証している。
- ・学内においても定例会議を実施し、学校の理念に沿った運営方針や事業計画を教職員全員に周知している。また、責任者会議や各系会議では、現状把握や問題解決のための具体的な取り組みを話し合っている。
- ・学内では学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、麻生塾システムで広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。勤怠システムでは、教職員の出退勤に関する管理を行い業務の効率化に取り組んでいる。

【委員からの意見】

- ・会議が多いと感じるが、ファシリテーターを配置するなどして効率化を図るようすべき。普段のコミュニケーションが大切である。

【改善の方策】

- ・学科内および学内での日々のコミュニケーションを心がけるとともに、各会議の内容を充実させ、かつ効率化を図るためにも、ファシリテーションの必要性および計画的な会議設定をおこなう。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・教育課程編成にあたっては、今年度のカリキュラム研修において、専門家による「教学マネジメント研修」を全教員が受講して、育成人材像から下りてくるディプロマポリシーをもとに、カリキュラムポリシーの策定へ進み、各学科の教育課程へと展開されるマネジメントについて学んだ。
- ・人材育成像を定めるにあたっては、業界の人材ニーズを反映したものにするため、教育課程編成委員会での意見を反映させて、ディプロマポリシーを明示したのちに、カリキュラムマップの作成まで進めた。
- ・教育の評価に関しては、年に2回「授業アンケート」を行い、常勤教員に関しては各自にフィードバックを実施して、個別の指導・サポートをしているが、非常勤講師に対しては必要時のみ行っている。
- ・専任教員の現場研修については、今年度実施できなかった。
- ・学科内、系内の連携・協力体制については、各教員の業務負担の軽減や、業務の効率化のために引き続き検討していく。

【委員からの意見】

- ・カリキュラムマップについて学生への開示をしているか。ゴールを見せないと学生のモチベーションは上がらないと感じるが、工夫できることがあるのではないか。
- ・非常勤講師に対しては、教科目のテーマだけではなく、ある程度具体的な提示をしてもらえると学生への授業に落とし込みやすいと考える。
- ・専門家による「教学マネジメント研修」を全教員が受けていることは、非常に良いことであるので、継続して欲しい。一方で、非常勤への教育理念理解のための取り組みをがんばってもらいたい。
- ・非常勤講師の授業が分かりづらいという学生の声がある。
- ・教育においては、常勤と非常勤の区別はないため、よりよい教育のためには非常勤講師への教区サポートやマネジメントが必要である。

【改善の方策】

- ・カリキュラムマップの学生への開示をおこない、専門的知識・技術が目的に対してどのような位置づけになっているのかを理解させ、モチベーションの維持・向上につなげる。
- ・非常勤講師の評価とフィードバックに着手し、課題の抽出と改善のための方策を検討する。
- ・専任教員の現場研修については、実施に向けて引き続き調整・実行していく。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・就職に関しては、月毎の目標達成状況を追いながらも、ミスマッチを防ぐため個別性を重視して指導・支援を行っている。
- ・資格取得率・合格率については、学科内で結果に関する分析・検証をおこない、改善を図っている。
- ・退学者については、問題が起きそうな学生および状況を早期に把握するため、学科会議・責任者会議や「ケース検討会議」などで情報の共有化を図り、学生相談室とも連携して適時対応をしている。
- ・卒業後の状況については、就職担当者の病院・施設等への訪問や、現場実習の際の教員の巡回指導時にもおこない、専攻分野における社会的評価に関しても、現場からの情報をもとに、随時学内でも共有している。

【委員からの意見】

- ・限られた求人数の中で、就職担当者による、きめ細かな支援がなされている。
- ・卒業後の社会的評価については、さらなる情報収集が必要であるとする。

【改善の方策】

- ・就職担当者との連携を続けながら、卒業生の社会的評価を把握する方策を検討する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学生に対する修学支援、生活支援、進路支援、健康管理については、担任および各系責任者が把握し、学内での検討をおこなっている。
- ・経済的側面に対する支援については、学生支援グループと連携し、保護者との連携も重要であるため、電話・面談による相談も含めて適切におこなっている。
- ・生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備し、定期的に学生の状況把握と報告を受けている。また、アンケート等にて学生の意見を取り込んだり、レクリエーションを実施したりして、寮生の満足度が向上する取り組みを進めている。
- ・2018年スタートのサークル「ASO ミュージッククラブ」は、担当教員のサポートにより、オープンキャンパスでの演奏披露、外部の福祉施設でのボランティア演奏会、学園祭への参加などを通して活動を広げている。

【委員からの意見】

- ・(コロナ禍において) 家庭の事情での休学や退学は出ているか。→現状では出していない。

【改善の方策】

- ・コロナ禍における修学支援・生活支援・進路支援については、今後も変化が著しいと考えられるため、適時学生の状況や社会情勢について、情報収集に努める。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・教育上の必要性に対応した施設・設備に関しては、維持・管理、安全・衛生についても、事業戦略グループと連携しながら、計画的に実施している。教育上の必要性に対応した機材・備品の整備についても、年次的に計画して実行している。
- ・福岡キャンパス内にある総合図書館では、養成施設として必要な図書や各校からニーズのある書籍などをヒアリングしたうえで、定期的に収集し保管している。また、固定資産管理規定に基づき、図書や書籍を含む資料類を適切に管理している。

【委員からの意見】

2019年度自己点検・評価に対する意見は特になく、コロナ禍におけるオンライン授業の状況に関する意見。

- ・オンライン授業時には、学生の状況はどうであったか。→通信環境がすぐには整えられない学生もいたが、機器の貸し出し等で何とか実施できた。学科によっては演習などオンラインではできない内容があり、対面授業開始後へと移動させた科目もある。

- ・病院および施設実習などはどうなっているか→対面授業開始後、徐々に受け入れられている場合もあるが、受け入れが停止されているところも多く、実習の配置替えや学内実習に切り替える学科もある。

【改善の方策】

- ・コロナ禍における教育のあり方については、環境や機器の整備等ハード面とともに、オンラインによる心身両面のサポートに努めていく。
- ・オンライン授業の実施にあたり、法人として常勤・非常勤講師のITリテラシーの向上および技術的な支援を検討する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・アドミッションポリシーを策定し、学生便覧によって教職員はじめ学生等に周知し、WEBや募集要項によって社会に公表している。
- ・募集対象者へ教育効果を伝える際に、WEB上に公開される情報が刷新されていなかった。
- ・選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行っている。
- ・法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。

【委員からの意見】

- ・最新情報の公開に留意されたい。
- ・広報におけるインターネットの活用状況で、在校生を活用して協力させる体制などは考えているか。
→学校管理のSNS発信はしているが、学生主体のインターネット活用は、リスクの問題もあっておこなっていない。
- ・WEB広報の効果的方法を他に先がけて検証し、実行して欲しい。高校生からの視点では、どこも同じ感じでオンラインは疲れるとの意見もあり、ARの活用なども検討すべきと考える。

【改善の方策】

- ・募集対象者へ教育効果を伝える際は、WEB上公開されるものについても、情報を遅延なく公開する。
- ・WEB広報のあり方については、単独で可能なことと法人全体でおこなっていくことがあるため、関係部署との連携のもと協議を進めていく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・予算計画および予算執行については、年度初めの事業計画を基に適切に執行されている。
- ・学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。
- ・監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、情報の公開についても、ホームページにて適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・コロナ禍における財務状況について、問題はないか。→ 問題はないと考える。

【改善の方策】

- ・特になし

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、定例会議等で周知徹底を図り、法令に関する研修において、事例の共有と知識の習得に努めている。
- ・また、ハラスメント防止啓発については、学生便覧にも掲載をし、教職員以外の学生にもオリエンテーション等を通じて周知をしている。

【委員からの意見】

- ・特になし

【改善の方策】

- ・引き続き教職員の研修を計画的に進める。

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施している。課題解決に向けては、今年度より教務会議で周知し、共有化を図ったが、解決に向けて定期的な進捗状況の共有が一部できていない。
- ・自己点検・評価および学校関係者評価の結果を公表して、社会に対する説明責任を果たしている。

【委員からの意見】

- ・学科間、教員間で自己点検・評価に対する意識に差があるのではないかと。共通課題を共有することで、質の担保、レベルの向上につながると考える。
- ・教職員同士が気軽に何でも、すぐに聞くことができ、かつ自然と教えたりサポートできたりする、フラットな関係性が期待される。学校全体のイメージは、教職員一人ひとりの態度によってつくられると思う。

【改善の方策】

- ・改善計画の進捗状況を教職員で共有して意識化する。

基準 11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・月1回、定期的に行っている社会福祉科による「ASOこども食堂」と、こども未来学科による公民館での「子育てサロン」によって、社会貢献・地域貢献を継続的に行っている。
- ・社会福祉施設や事業所からのボランティア依頼を、担当者が掲示板に貼り、部門朝礼での伝達および取りまとめをおこなって、学生がボランティアに参加しやすいように、組織としてサポートしている。

【委員からの意見】

- ・社会貢献、地域貢献は、素晴らしいものがあると思うが、あまり知られていないのが残念。ストロングポイントなので、TVやWEBなどを利用して情報発信をしてはどうか。

- ・多くの学科で、教員・学生ともボランティア活動を実施して欲しい。

【改善の方策】

- ・「ASO子ども食堂」や「子育てサロン」について、紹介の機会を検討する。
- ・コロナ禍におけるボランティアのあり方や方法については、検討しながら進めていく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・留学生の受入れ、在籍管理については、学生支援グループと連携しておこなっている。
- ・あらたに開講した「国際介護福祉科」での、在留審査関係申請および在留資格認定証明書の交付申請に係る取次を担当する教員を配置し、上記の部門と共に相談体制を整備した。
- ・海外留学プログラムに対する支援は適切に行っている。
- ・法人と派遣先教育機関との間でアグリーメントを締結し、契約期間終了時には契約の見直し／更新を行っている。

【委員からの意見】

- ・他国の方との交流もでき、同じ目標に向かって勉強できることは、とても良い経験だと思う。
- ・留学生の方たちにも、十分な支援が必要かと思う。
- ・さらなる国際交流に期待している。
- ・WEB留学など、新たな取り組みをして欲しい。一日、一週間、定期、不定期など、多様な学びのチャンスを開けてみてはどうか。

【改善の方策】

- ・コロナ禍における留学生への支援を隙間なくおこなっていく。
- ・WEBを活用するなどの新しい留学のあり方については、関係部署へ提案していく。

以上